

近年の文化財調査の成果

～発掘調査等の新発見～

をお知らせします



市では、遺跡などの埋蔵文化財について、土器等の遺物や住居跡などの遺構を発掘調査し、記録として保存しています。近年の発掘調査によって、本庄市の歴史を考えるうえで重要な数多くの発見がありましたので、その成果の概要について紹介します。
(写真は宮内上ノ原遺跡での発掘作業の様子)

大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区の発掘調査では、古墳時代前期（4世紀）の方形周溝墓といわれる墳墓の跡が多数発見され、本庄市域における地域の社会の発展の過程を垣間見ることができま

本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査①
大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区（西富田）



▲多数の方形周溝墓（四角い形の墳墓）が発見された大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区。右に見えるのが上越新幹線本庄早稲田駅、左に見える建物が早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター。

また、この遺跡からは関東
ローム層といわれる赤土の中からおおよそ2万年前にさかのぼると推定される旧石器時代（旧石器時代）の石器や石器を作った黒曜石などが数多く発見されました。
この発掘は、旧石器時代の本格的な発掘調査としては市内で初めて実施されたもので、極めて意義深いものです。さらに、縄文時代から弥生時代におよぶ遺構や遺物も発見されています。

本庄早稲田駅周辺土地区画
整理事業に伴う発掘調査②
久下東遺跡（北堀）

上越新幹線本庄早稲田駅周辺にある久下東遺跡では、古墳時代から平安時代の竪穴式住居跡が数多く発見され（左写真参照）、当時この地に古代の集落があったことが明らかになりました。また、戦国時代に本庄城を築いたとされる「本庄氏」の一族に関わる居室と推定される屋敷跡の一部も発見されました。

工場や住宅などの建設に先
立つ発掘調査

民間の開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査についても、開発事業者をはじめとしたみなさんのご協力により実施しています。宮内上ノ原遺跡（児玉町宮内）は、特別養護老人ホーム等の建設に先立って発掘調査を実施したもので、縄文時代前期の竪穴式住居跡が発見され、大規模な集落跡の広がりを確認することができました。また、将監塚遺跡



（共栄）では、工場建設に先立って発掘調査を実施し、古墳時代から平安時代の集落跡の発見など、多くの成果を挙げました。小島本伝遺跡（小島）は、個人住宅建設に先立って発掘調査を実施したもので、古墳時代の集落跡が発見されました。

このような発掘調査以外にも、八幡神社（児玉町児玉）では、社務所等の解体・新築工事に伴って実施した調査によって、市指定有形文化財である「八幡神社能楽殿」の「橋がかり」と呼ばれる廊下部分と社務所の床下から、戦国時代から江戸時代前期ごろと思われる建物跡を発見しました。この建物跡は、八幡神社の別当寺（神社に付属しておかれていた寺のこと）であった「大善院」という寺の跡であると推定されるもので、江戸時代中期に相次いで建立された現在の八幡神社社殿および青銅鳥居（県指定有形文化財）や隨身門（市指定有形文化財）の建設に先立って建てられていたものと考えられます。現在の八幡神社の鳥居から社殿までの参道が途中で曲がっているのは、この建物を避けて他の建物を配置したため、と考えられます。



▲北泉小学校の児童や市民のみなさんが参加した現地見学会（久下東遺跡）

こうした埋蔵文化財や有形文化財をはじめとする文化財の調査によって、本庄市の歴史が次々と、より具体的に明らかになってきました。

市では、これらの成果を学校教育や社会教育あるいは生涯学習の資料として役立てて

いくととともに、将来はみなさんに「新しい本庄市の歴史」として紹介できるように、今後も調査研究を進めます。

文化財や発掘調査に関するお問い合わせ先

★文化財保護課 ☎ 25 1185



▲八幡神社（児玉町児玉）で発見された「大善院」と推定される建物跡。大善院が廃絶した跡に能楽殿が、その後社務所が建設されたと考えられます。